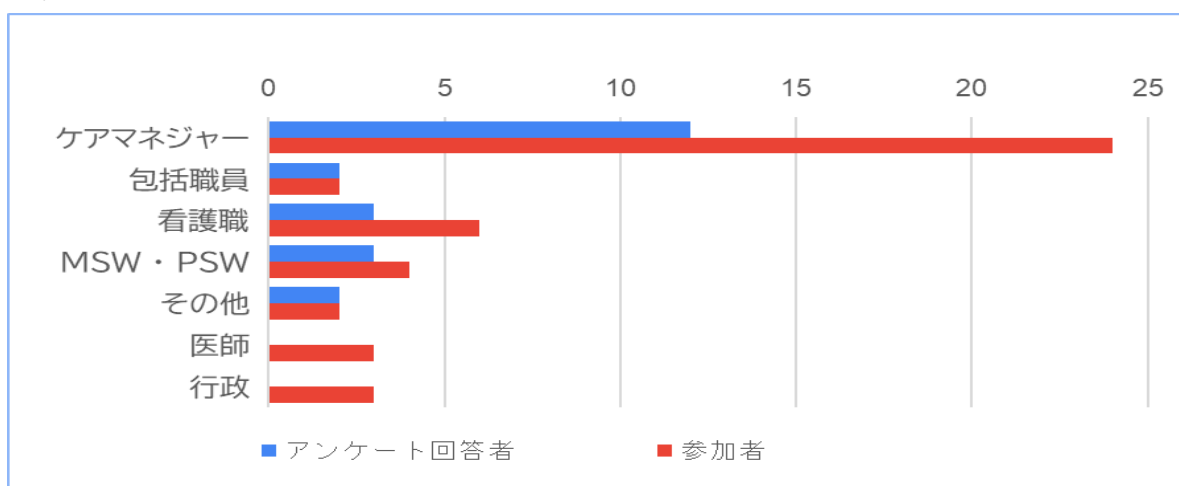


令和6年度大分市在宅医療・介護連携推進事業 第1回 在宅医療と介護に関する研修会  
 「～アナログ&デジタル～ 情報共有と医療・介護DX」報告書

- 1 日時 令和6年9月18日(水) 14:00~15:30
- 2 開催方法 オンライン (Zoom)
- 3 内容 第1部 講話  
 「情報共有と医療・介護DX」  
 大分市保健所 保健総務課 上田 卓司 氏  
 第2部 グループワーク

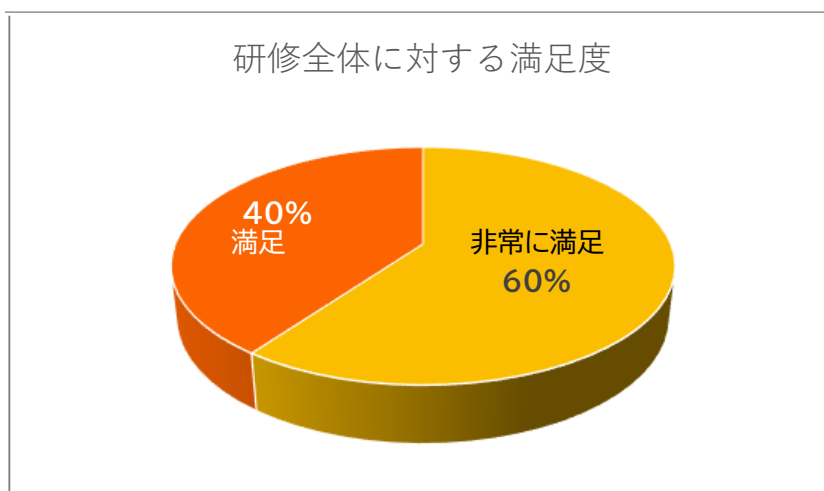
4 参加者の職種とアンケート回答数



5 アンケート集計結果 回答数22/参加者44名中

(1) 研修会全体の満足度

非常に満足	24
満足	16
不満、やや不満	0



## 5 アンケート集計結果（つづき）

### (2) (1)の回答理由（抜粋）

#### 【非常に満足】

- ・ ICT 化が叫ばれる時代だが、人手不足でも対面の重要性に改めて気づかされた。[ケアマネジャー]
- ・ 地域の情報連携の DX 化に興味や課題に感じているのはどのような方々なのか知る事ができ、また顔見知りになる事ができたのは大きな収穫だった。[看護職]
- ・ 今まで知らなかった情報共有ツールの存在を知ることができたから。[多数意見]

#### 【満足】

- ・ 他事業所・他職種の使用ツールやツールの使用感が聞いてよかった。[多数意見]
- ・ アナログの必要性もありつつ、デジタルの活用で幅広い支援とサービスの標準化などに繋がって、便利で効率化が図られるのだなと改めて認識できた。[ケアマネジャー]

【やや不満】・ Zoom に再入室できず、グループワークに参加できなかった。

### (3) 研修会の感想、気づき（抜粋）

#### 【他事業所との情報共有】

- ・ 情報共有にあっては、まずは、顔の見える関係づくりが最初の一步ではないか。
- ・ デジタルツールが普及してもお互いの顔や声を直接届けられる関わりを続けていきたい。
- ・ 医療と介護との連携が課題。そこの難しさ、どうしたらより良くなるかお互いが現状を知った上で、お互いに地域のために何が出来るかを考えていきたい。市や行政が整備するものとしては限界があると思う。
- ・ 事業所間の情報共有は相互に連携して初めて有効となる。こうした会には、大病院に積極的に参加してほしい。そしてこの連携推進事業は、参加者に限らず、事業所内で共有ができるよう進めていただきたい。
- ・ 情報共有が必要だとの見解には同意だが、どこまでの情報を共有するのかは立場によって大きく異なる。基盤となる大きな情報(医療保険や介護保険情報、基礎疾患、薬情報など)の共有以外は、アクセス先(家族やケアマネなど)がわかればアナログで補完することも可能では。

#### 【連携のためのツール（手段）について】

- ・ 災害時、ICTは弱いと思う。その時はやはりアナログがよかったりもするのかなと思った。
- ・ 経費削減と仕事上の時間短縮の両立が出来るツールがあれば良いと思った。高齢者でも簡単に使えるものがあれば尚良い。
- ・ 高齢者は、服薬管理や体調面での報告がきちんと出来ない方が多いため、在宅側からもデジタルツールで報告ができるものがあると良いと思った。
- ・ 『情報共有のためのデータ打ち込み』といった作業時間などを考慮すると、本当の意味での効率化がどこまで図れるのか、見極めたうえでデジタルツールの活用を検討したい。
- ・ 知りたい情報が事業所間で違うため、お互いの欲しい情報が端的に的確にわかるツールがあると便利だと感じた。
- ・ 在宅で利用できるツールが少ない。今後、医療と連携して利用できるものが出来てくると助かると感じている。(複数意見)
- ・ 介護分野では支援者の高齢化が進んでいるため、活用できない事業所、職員、経営者も多く、苦手意識から浸透しない側面もある。ICTに慣れていくことが必要。
- ・ ICT はハードルが高いが、キーパーソンもスマホを所有しているので使わざるを得ない。スマホ等の使用で、離れていても見える状況となるのでわかり易いと思う。
- ・ 個人的にLINEの活用を検討したいと思った。無料のアプリであり、端末は必要となる(BYOD)が業務上とても便利だと感じた。LINE に絞った活用方法の勉強会などができる面白いのでは。

#### 【ICTはこれから】

- ・ デジタルはツールとしては利用し易いが、各事業所でのソフトの違い、ルール取り決め等の課題もあり、利用に至るまではもう少し時間がかかるのではと思った。
- ・ 便利だとは思いますが、セキュリティや職員の年齢などを考えると導入するまでには時間がかかりそう。
- ・ 医療介護 DX 化を進めて行かなければならない昨今の状況にあって、まだまだアナログからの脱却が難しい現状にあるという事を、皆さんの意見をお聞きしながら強く感じた。
- ・ デジタルツールの使用には使用方法の煩雑さや、個人情報等の漠然とした不安もあると思う。こうした研修会やグループワークでの他者の使用状況や使用感を知り、新しいツールを使用することへの不安や抵抗感が無くなってくると良いと思った。

— アンケートからは以上です。 —